

延長増幅器  
品番 EA8002  
取扱説明書

**DXアンテナ株式会社**

このたびは、DXアンテナ製品をお買い上げいただきありがとうございます。  
この製品を正しく理解し、ご使用いただくために、取扱説明書をよくお読みください。  
お読みになった後は、いつでも見られるところに保存してください。

## ◎安全上のご注意



△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。  
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は警告または注意）が描かれています。



⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。  
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は注意して行なってください）が描かれています。



### 警告

この内容が無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

●テレビ受信関連工事には技術と経験が必要ですので、お買い上げの販売店もしくは工事店にご相談ください。



●表示された電源電圧（交流20～30または交流40～60ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災や感電の原因となります。



●この製品の本体を引っ張り強さ0.39kN以上の金属線または直径1.6ミリメートル以上の軟銅線で接地してください。接地しないと避雷やシールドの効果が下がり、感電や故障の原因となります。



●高所に設置する場合は、足場と安全を確保して行なってください。  
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。



●風の強い日や、雨、雪、雷などの天候の悪い日は、危険ですから設置工事や点検をしないでください。  
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。



●この製品に接続する同軸ケーブルには電流が流れることがありますので、途中には通電形機器以外は絶対に挿入しないでください。通電形機器を挿入する場合は、通電端子をよく確かめてお使いください。もし、非通電形機器を挿入しますと、回路やケーブルがショートして、火災や感電の原因となります。



●この製品に接続する同軸ケーブルには電流が流れることがありますので、製品と接栓の接続および接栓と同軸ケーブルの接続で、心線と外部導体がショートしないようにしてください。火災や感電の原因となります。



- この製品に水が入ったり、ぬれたりしないようご注意ください。雨天での設置工事や点検・調整で蓋を開けないでください。火災や感電の原因となります。



- この製品を設置・点検・調整した後は、正しく蓋およびモニタキャップを閉めてください。水が入ったりして、火災や感電の原因となります。



- 万一内部に水が入った場合は、まずこの製品に供給している電源を切り、水をよく拭き取ってから、電源を供給してください。そのまま使用すると火災や感電の原因となります。



- この製品を分解したりしないでください。また、お客様による修理や改造はしないでください。感電やけがの原因となりますし、性能維持ができなくなり、故障の原因となります。



- 万一、煙が出ている、変な臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。すぐにこの製品に供給している電源を切り、煙がでなくなるのを確認してCATV施設の管理者もしくは工事店に修理をご依頼ください。



- 取り付けネジやボルトや接栓は、指定している力(トルク)で締め付け、堅固に取り付け固定してください。落下や破損して、感電やけがや故障の原因となります。



- この製品や部品および工具類を高い所から落とさないでください。けがの原因となります。



- この製品のヒューズは同一規格の容量および形状のものをご使用ください。また交換の際は、電源ユニットのコネクタをはずすなど、必ず電源が供給されていない状態で行なってください。火災や感電の原因となります。



- 雷が鳴り出したら、この製品にはふれないでください。感電の原因となります。



# 目 次

1. 機 器 概 要 .....	2
2. 特 長 .....	2
3. 使用上の注意 .....	2
4. 各 部 の 名 称	
4.1 本体部 .....	3
4.2 増幅部（ベース部）ユニット（EA8002ユニット） .....	4
4.3 AVRユニット（AVR-514） .....	5
5. 操 作 説 明	
5.1 各部の取り付け、取りはずし方 .....	6～8
5.2 ケーブルの接続方法 .....	8～9
5.3 通 電 .....	10～11
5.4 各帯域の調整 .....	12～14
6. 付 属 品 .....	14
7. 規格とブロックダイアグラム	
7.1 規 格 .....	15
7.2 ブロックダイアグラム .....	16
8. 外 観 図 .....	17

## 1. 機器概要

この製品は、都市受信障害対策用のCATV用延長増幅器です。UHF帯域はアナログ7波+デジタル9波の伝送が可能です。

## 2. 特長

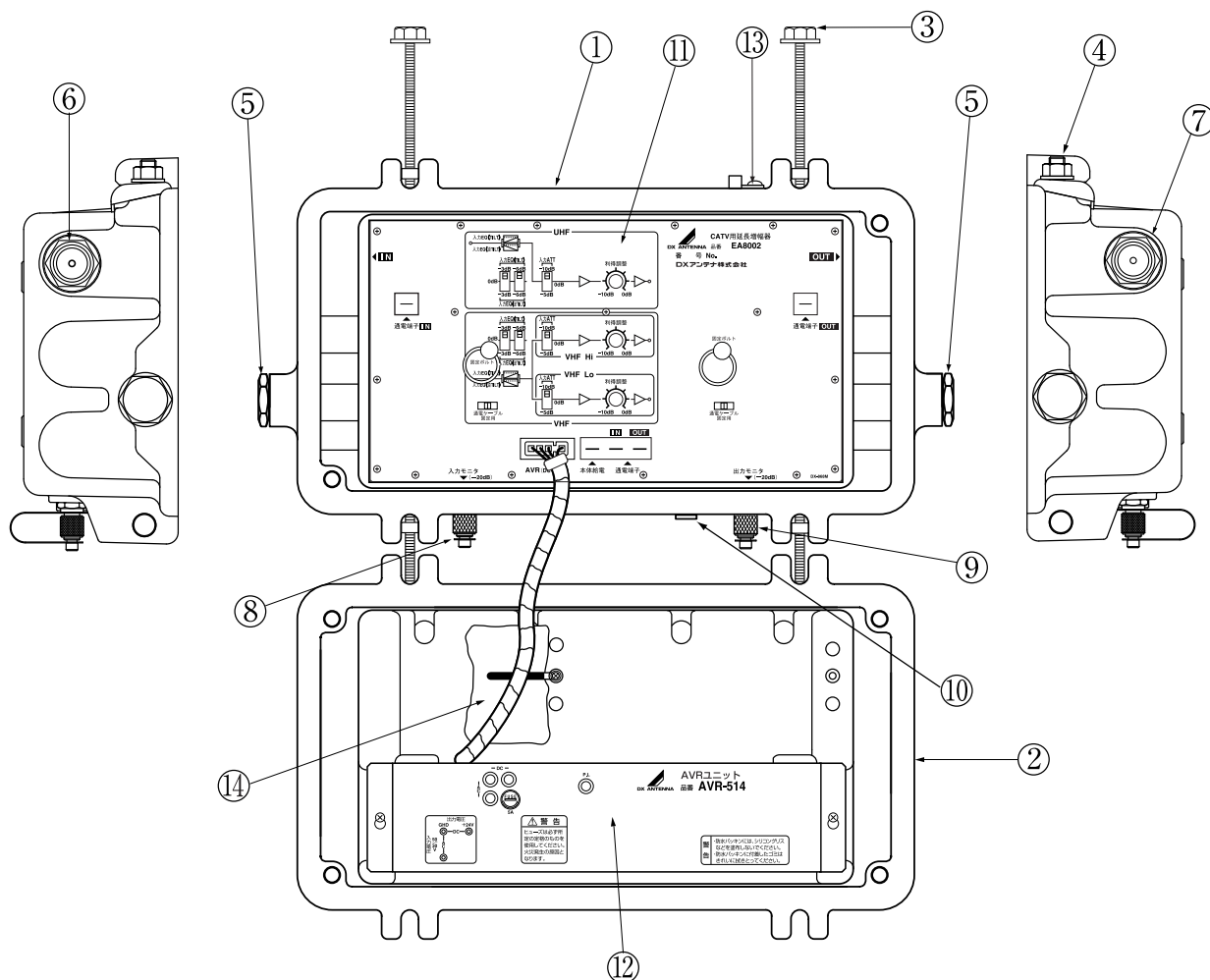
- ・小形軽量のアルミダイカストケース採用により、放熱効果にも優れています。(全高200mm)
- ・シリコンパッキンの採用により、防水効果は確実です。
- ・電磁シールドの採用により、電波漏洩対策も万全です。
- ・電源入力端子(本体給電口)が左右に各1か所あり、施工に便利です。
- ・通電ケーブルの操作で、本体給電、重畳給電それぞれに対応します。
- ・電源電圧はAC30V(AC20~30V)、AC60V(AC40~60V)の両施設に使用できます。
- ・AVRに力率改善回路を採用することにより、消費電力を低減しました。
- ・アンプ運用時にダイカストケース外側からパイロットランプの確認ができます。

## 3. 使用上の注意

1. AC入力電圧が規定値であることを、AVRユニットの電圧チェック端子においてテストで確認してください。
2. 各端子の通電電流容量は最大6Aとなっていますから、必ずこの値以下で使用してください。  
※電源入力端子(本体給電端子)は6A以下です。
3. 増幅器本体上面右の機能アース端子を引っ張り強さ0.39kN以上の金属線または直径1.6mm以上の軟銅線により大地に接続してください。機能アースは安全アースではありません。
4. 脱落防止のため、フタ固定ボルトは引っぱらないでください。
5. フタを閉める時は、防水パッキンが曲がっていないことを確かめ、フタ固定ボルトで締め付けてください。また、取り付けや調整の際、雨水や湿気が増幅器内部に入った時は、水分を乾いた布でよく拭き取ってからフタを閉じてください。  
※拭き取る時は溶剤等を使用しないでください。  
※防水パッキンにはシリコングリス等を一切塗布しないでください。  
※フタ締め付トルクは $12 \pm 1 \text{ N} \cdot \text{m}$ で均一に締め付けてください。
6. 使用しない電源挿入口は、必ずシリコングリスを塗布したM18ネジフタでしっかりふさいでおいてください。M18ネジフタの締め付トルクは $12 \pm 1 \text{ N} \cdot \text{m}$ で締め付けてください。
7. 同軸給電をする場合は、別売りの同軸給電用電源アダプタPY-111をご使用ください。締め付トルクは $12 \pm 1 \text{ N} \cdot \text{m}$ で締め付けてください。
8. フィッティング接栓の締め付トルクは $12 \pm 1 \text{ N} \cdot \text{m}$ で締め付けてください。
9. デジタルTV放送信号およびデータ信号は、アナログTV放送信号に比べて-10dBのレベルにて運用してください。

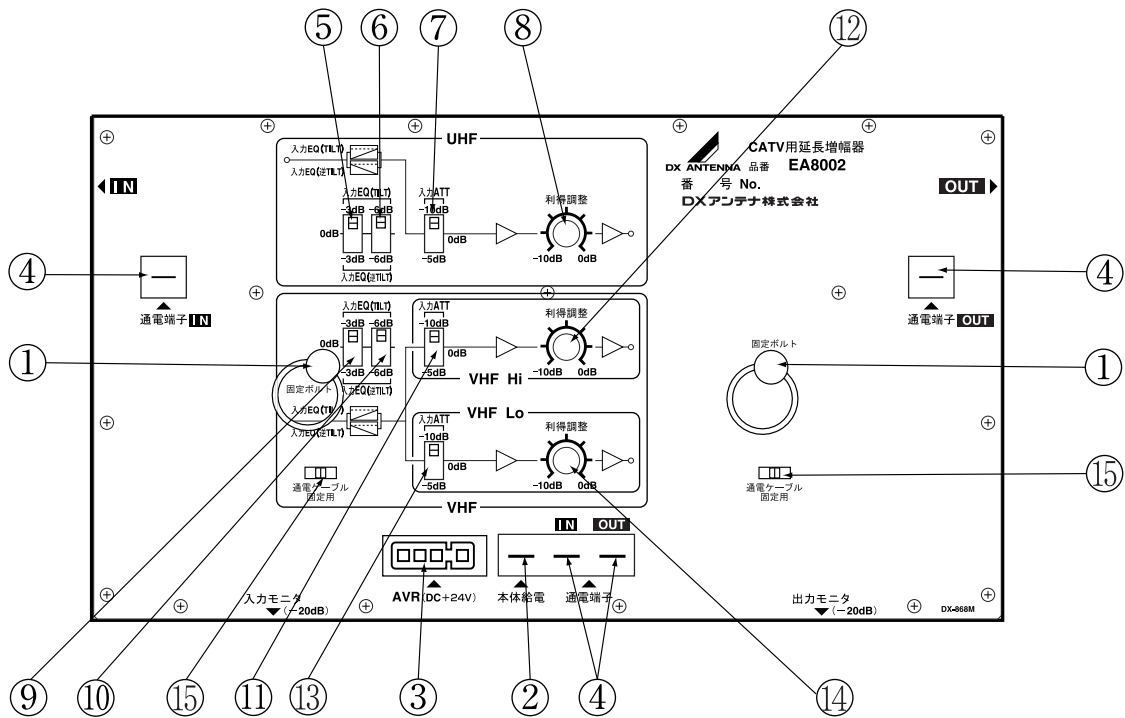
## 4. 各部の名称

### 4.1 本体部



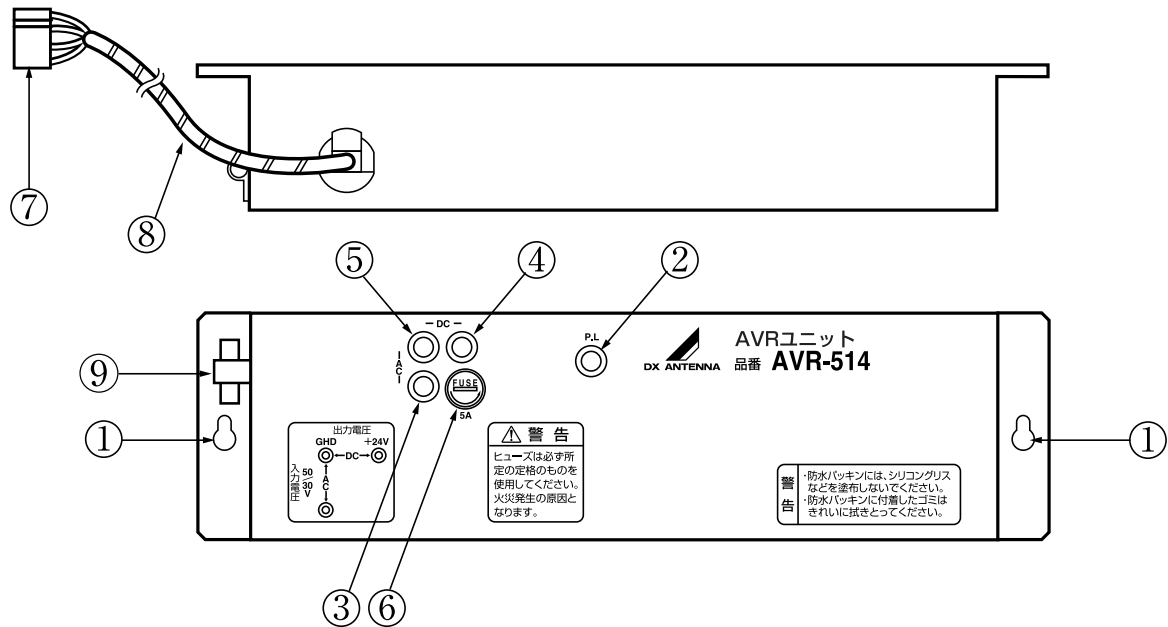
- |                      |                    |
|----------------------|--------------------|
| ① ダイカストケース本体         | ⑧ UHF・VHF入力モニタ端子   |
| ② ダイカストケースフタ         | ⑨ UHF・VHF出力モニタ端子   |
| ③ フタ固定ボルト（4本）        | ⑩ 通電確認用ランプ         |
| ④ メッセンジャーワイヤ固定金具（2個） | ⑪ 増幅部ユニット          |
| ⑤ 電源挿入口（2か所）         | ⑫ AVRユニット（AVR-514） |
| ⑥ UHF・VHF入力端子        | ⑬ 機能アース端子          |
| ⑦ UHF・VHF出力端子        | ⑭ シリカゲル            |

## 4.2 増幅部(ベース部)ユニット(EA8002ユニット)



- |                                 |                                  |
|---------------------------------|----------------------------------|
| ① ユニット固定ボルト (2本)                | ⑨ VHF入力EQスイッチ (-3dB TIIT/逆TILT)  |
| ② 本体給電コネクタ                      | ⑩ VHF入力EQスイッチ (-6dB TIIT/逆TILT)  |
| ③ AVRコネクタ                       | ⑪ VHF Hi入力ATTスイッチ (0, -5, -10dB) |
| ④ 通電端子 (4か所)                    | ⑫ VHF Hi利得調整ボリューム (0~-10dB連続可変)  |
| ⑤ UHF入力EQスイッチ (-3dB TIIT/逆TILT) | ⑬ VHF Lo入力ATTスイッチ (0, -5, -10dB) |
| ⑥ UHF入力EQスイッチ (-6dB TIIT/逆TILT) | ⑭ VHF Lo利得調整ボリューム (0~-10dB連続可変)  |
| ⑦ UHF入力ATTスイッチ (0, -5, -10dB)   | ⑮ ケーブル固定用クランプ (2個)               |
| ⑧ UHF利得調整ボリューム (0~-10dB連続可変)    |                                  |

### 4.3 AVRユニット (AVR-514)



- |   |                            |
|---|----------------------------|
| ① ユニット固定部 (2か所)                         | ⑥ ヒューズ (5A、耐ラッシュ、ミゼットタイプ)  |
| ② パイロットランプ<br>DC電圧出力時に点灯します             | ⑦ 入出力コネクタ<br>増幅部ユニットに接続します |
| ③ AC電圧チェック端子<br>AC20~30V、AC40~60V入力電圧   | ⑧ 入出力ケーブル                  |
| ④ DC電圧チェック端子<br>DC+24V出力電圧              | ⑨ 予備ヒューズ                   |
| ⑤ 電圧チェック用GND端子 (AC、DC共通)<br>電圧測定時に使用します |                            |

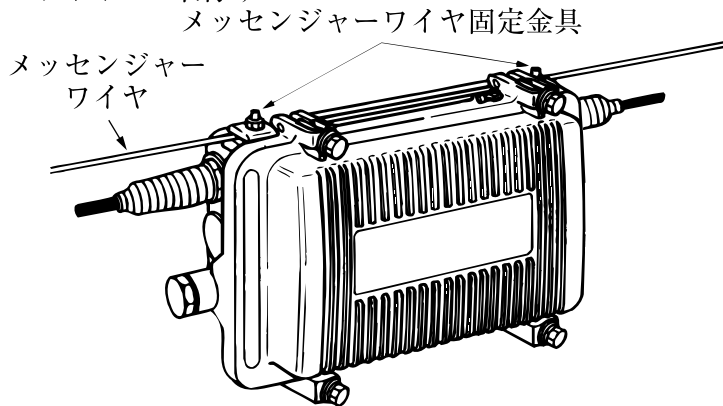


## 5. 操 作 説 明

### 5.1 各部の取り付けと取りはずし方

#### 5.1.1 本体の設置方法

＜メッセンジャーワイヤへの取付け＞



**手順1** メッセンジャーワイヤ固定金具の締付ボルトを緩め、図のように金具のくぼみにメッセンジャーワイヤがくるように本体を引っ掛けます。

**手順2** メッセンジャーワイヤ固定金具締付ボルトを締付トルク $12 \pm 1 \text{N} \cdot \text{m}$ でしっかりと締め付けます。

- ・メッセンジャーワイヤは $\phi 5 \sim \phi 11 \text{mm}$  ( $20 \sim 95 \text{mm}^2$ )のワイヤを使用してください。
- ・本体を取りはずすときは、製品が落下しないように注意のうえ、メッセンジャーワイヤ固定金具の締付ボルトを緩めてから取りはずしてください。

＜壁面・ポールへの取付け＞

- ・本体背面の4か所のネジ穴(M6、有効ネジ深さ7mm)へ別売りの金具をしっかりと取り付けて壁面やポールに固定してください。壁面用はアンブ取付金具(PY-101)、ポール用はアンブ取付金具(PY-102)を使用してください。

#### 5.1.2 フタの開閉方法

- ・雨などにより、機器内部がぬれると機器の故障の原因となることがあります。雨や雪など天候の悪いときには、フタの開閉などの作業は、行わないでください。

また、万一機器内部に水や湿気が入ったときは、水分をよく拭き取ってからフタを閉じてください。

- ・この製品には、機器内部の乾燥のためにダイカストケースフタ部にシリカゲルを付けています。青色のシリカゲルの色がうすくなったり、青がピンクに変色した場合、シリカゲルの吸湿効果が低下していますので交換してください。

＜フタの開け方＞

**手順1** 上下4本のフタ固定ボルト(M8)を徐々に緩めます。

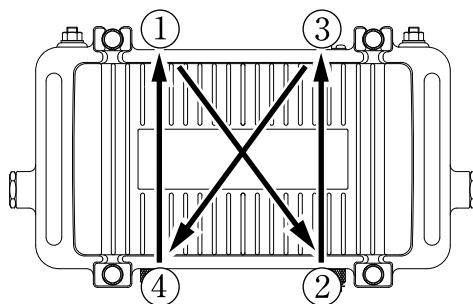
**脱落防止のため、締付状態から約2回転緩めた後は手で緩めてください。**

**手順2** フタ固定ボルトを4本とも緩めた後に、上側の2本をはね上げるとフタを開けることができます。

- ・固定ボルトやフタの脱落防止のため、固定ボルトを緩めすぎないように注意してください。固定ボルトを緩めすぎると、ボルト抜け防止のEリングがはずれ、ボルトやフタの脱落の原因となります。
- ・防水パッキンや本体とフタとの合わせ面は、傷を付けたりホコリなどにより、汚れたりしないように注意してください。

### <フタの閉じ方>

- 手順1** 本体とフタとの合わせ面や防水パッキンの汚れや水分を乾いた布できれいに拭き取ってください。  
・拭き取るときは溶剤等を使用しないでください。
- 手順2** フタを本体に押し当て、上側2本の固定ボルトを手前にたおし、上下4本とも手で軽く締め付けてください。
- 手順3** その後に図の①～④の順に数回にわけて、  
**12±1N・mで均一に締めてください。**
- ・締め付けが不十分であったり、均一に締まっていない場合、防水性が保たれない場合がありますので、注意してください。
  - ・防水パッキンには、シリコングリスなどを塗布しないでください。
  - ・フタを閉じるときは、AVRユニットのケーブル等をはさみ込まないように注意してください。



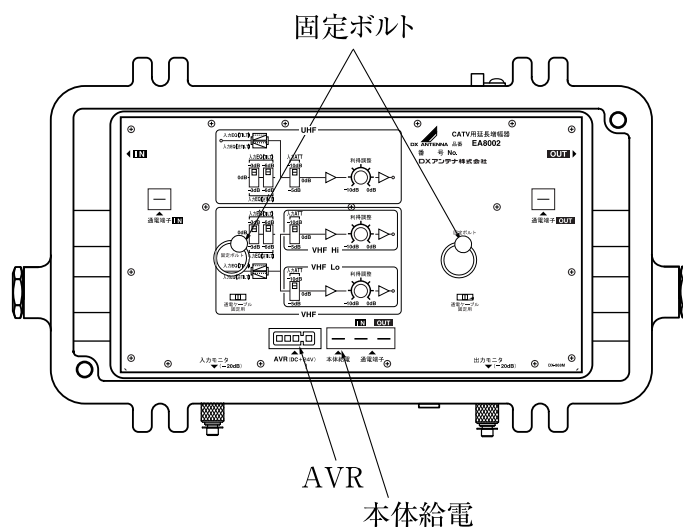
### 5.1.3 増幅部ユニット (EA8002ユニット)

#### <ユニットの取りはずし方>

- 手順1** このユニットに接続された全てのケーブルをはずします。
- 手順2** 固定ボルト (2本) を緩めてユニットをダイカストケース本体から引き抜いてください。

#### <ユニットの取り付け方>

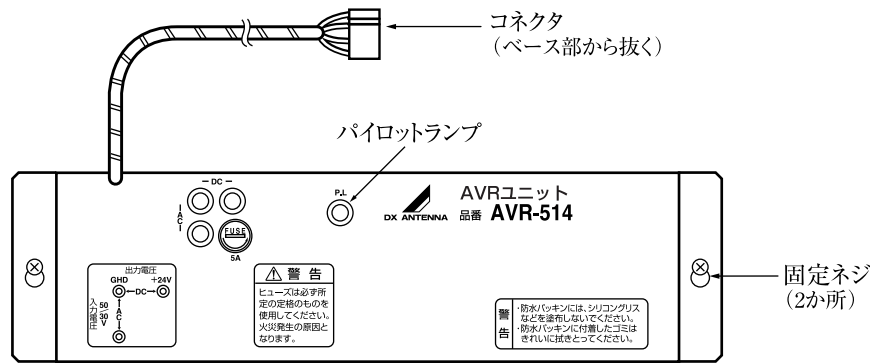
- ・取り付けは、取りはずしの逆の作業を行なってください。
- ・取付時には固定ボルトは、しっかりと締め付けてください。



## 5.1.4 AVRユニット (AVR-514)

<取りはずし方>

- 手順1 増幅部ユニット (EA8002ユニット) に接続されたケーブルをはずします。
- 手順2 固定ネジ (2本) を緩め、ユニットを上下方向にずらし取りはずしてください。



※このユニットとダイカストケースフタとの接触面は、放熱効果を良くするため、放熱シリコン (東レ SC-102相当品) を塗布しています。ユニットを交換するときには、同様に放熱シリコンを塗布してください。

<取り付け方>

- ・取り付けは、取りはずしの逆の作業を行なってください。
- 取付時には $1.8 \pm 0.2 \text{ N} \cdot \text{m}$ でしっかりと締め付けてください。

## 5.2 ケーブルの接続方法

### 5.2.1 入出力同軸ケーブルの接続

- 手順1 入出力端子には入出力ケーブルに合ったフィッティング接栓 (ミリネジタイプ) を使用し同軸ケーブルを接続してください。フィッティング接栓の締め付トルクは、 $12 \pm 1 \text{ N} \cdot \text{m}$ で締め付けてください。
  - ・ダイカスト本体とのネジ部には、シリコングリス (東レシリコンHVG相当品) を薄く塗布してください。
- 手順2 接続の終わった接栓には自己融着テープ、および、ビニルテープで防水処理を施してください。
  - ・入出力同軸ケーブルに電源を重畳する場合は、JIS規格ケーブル (JIS C3503、8C以上のパイプケーブル) をご使用ください。また、各入出力端子の通電容量は定格6A (最大7.5A) です。入出力端子への通電は、この値以下でご使用ください。

## 5.2.2 電源ケーブルの接続

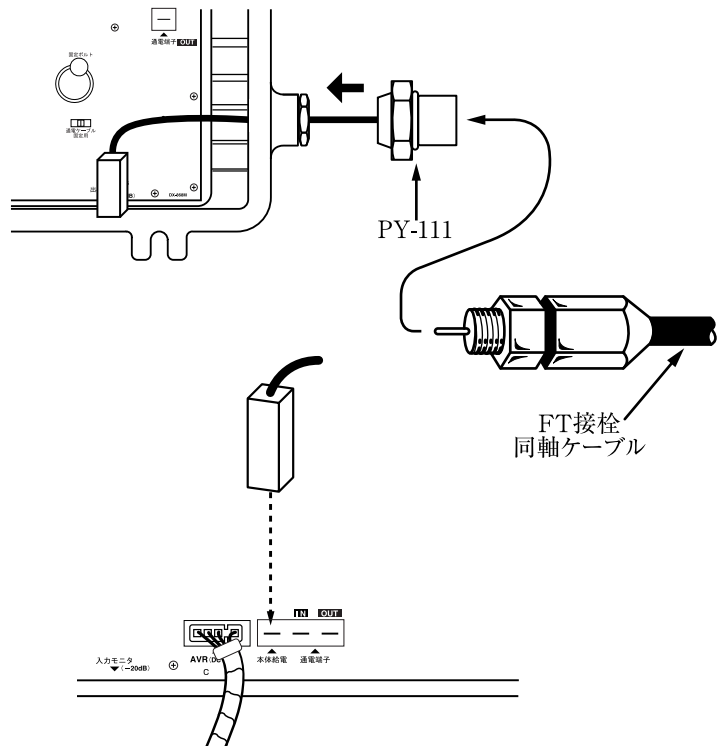
**手順1** 本体給電をする場合、別売りの同軸給電用電源アダプタPY-111をダイカストケース本体の電源挿入口に取り付けてください。締付トルクは、 $12 \pm 1 \text{N} \cdot \text{m}$ で締めてください。

- ・ダイカスト本体とのネジ部には、シリコングリス（東レシリコンHVG相当品）を薄く塗布してください。（コネクタ本体のOリングにはシリコンを塗布しないでください。）

**手順2** PY-111の先端のコネクタを電源入力端子（本体給電端子）に接続してください。

**手順3** 取り付けの終わったPY-111に、給電用ケーブルに合ったフィッティング接栓を使用しケーブルを接続してください。フィッティング接栓の締付トルクは、 $12 \pm 1 \text{N} \cdot \text{m}$ で締めてください。

- ・電源挿入口は左右に各1か所ありますので便利な方をご使用ください。
- ・給電用ケーブルには、JIS規格ケーブル（JIS C3503、8C以上のパイプケーブル）をご使用ください。また、本体給電端子の通電容量は定格6A、各入出力端子の通電容量は定格6A（最大7.5A）です。それぞれの端子への通電はこの値以下でご使用ください。
- ・使用しない電源挿入口にはシリコングリス（東レシリコンHVG相当品）を塗布したM18ネジフタ（端子に付属）でしっかりふさいでおいてください。ネジの取付トルクは、 $12 \pm 1 \text{N} \cdot \text{m}$ で締めてください。シリコングリスは、ネジ部に薄く塗布し、Oリングには塗布しないでください。



## 5.2.3 アース

この製品は正しい接続方法で確実に接地してください。正しく接地されない場合、本来の性能が保証されず、感電や故障の原因となります。

接地工事は電気事業法で定めるD種接地工事（ $100 \Omega$ 以下）を行なってください。また、接地線は、引っ張り強さ $0.39 \text{kN}$ 以上の金属線または $\phi 1.6 \text{mm}$ （ $2 \text{mm}^2$ ）以上の軟銅線を使用し、機能アース端子に付属の圧着端子を圧着または、半田付けで、接続してください。機能アース端子（圧着端子）の取付ネジは、 $1 \pm 0.2 \text{N} \cdot \text{m}$ でしっかりとダイカストケース本体に取り付けてください。

## 5.3 通電

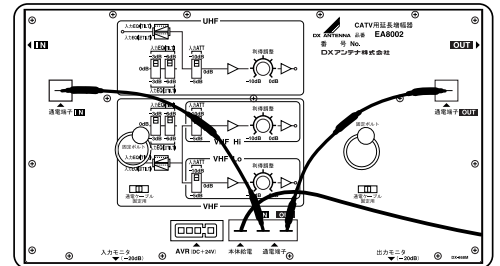
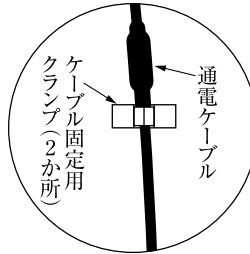
### 5.3.1 通電切換方法

通電ケーブルの接続により **IN**、**OUT** それぞれへの通電操作が可能です。

- ① 本体給電時に入力端子、出力端子に通電する場合。

UHF・VHF入力端子右下にある通電端子 **IN** と本体給電端子の横の **IN**、UHF・VHF出力端子左下にある通電端子 **OUT** と本体給電端子横の通電端子 **OUT** とを  
通電ケーブルにて接続してください。

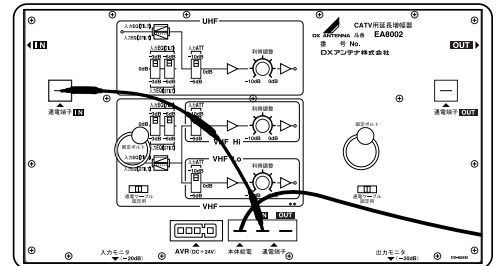
接続後、必ず通電ケーブル固定用クランプ  
で各ケーブルを固定してください。



- ② 本体給電時に入力端子に通電する場合。

UHF・VHF入力端子右下にある通電端子 **IN** と本体給電端子横の通電端子 **IN** とを  
通電ケーブルにて接続してください。

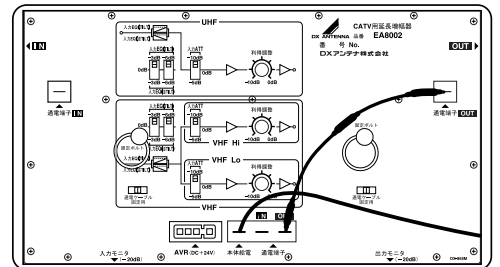
接続後、必ず通電ケーブル固定用クランプで各ケーブルを固定  
してください。



- ③ 本体給電時に出力端子に通電する場合。

UHF・VHF出力端子左下にある通電端子 **OUT** と本体給電端子横の通電端子 **OUT** とを  
通電ケーブルにて接続してください。

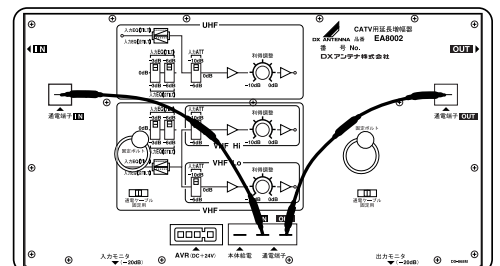
接続後、必ず通電ケーブル固定用クランプで各ケーブルを固定  
してください。



- ④ 入力端子または出力端子からケーブル重畳時に入力端子/出力端子へ通電する場合。

UHF・VHF入力端子右下にある通電端子 **IN** と本体給電端子の横の **IN**、UHF・VHF出力端子左下にある通電端子 **OUT** と本体給電端子横の通電端子 **OUT** とを  
通電ケーブルにて接続してください。

接続後、必ずケーブル固定用クランプで各ケーブルを固定して  
ください。



※各入出力端子の通電容量はそれぞれ定格6A（最大7.5A）です。各端子への通電は、この値以下でご使用ください。

### 5.3.2 AVRの動確認作

- ・通電され、動作しているAVRについて、以下の確認ができます。

パイロットランプ…………… AC電圧を受電し、DC電圧を出力している場合に点灯します。

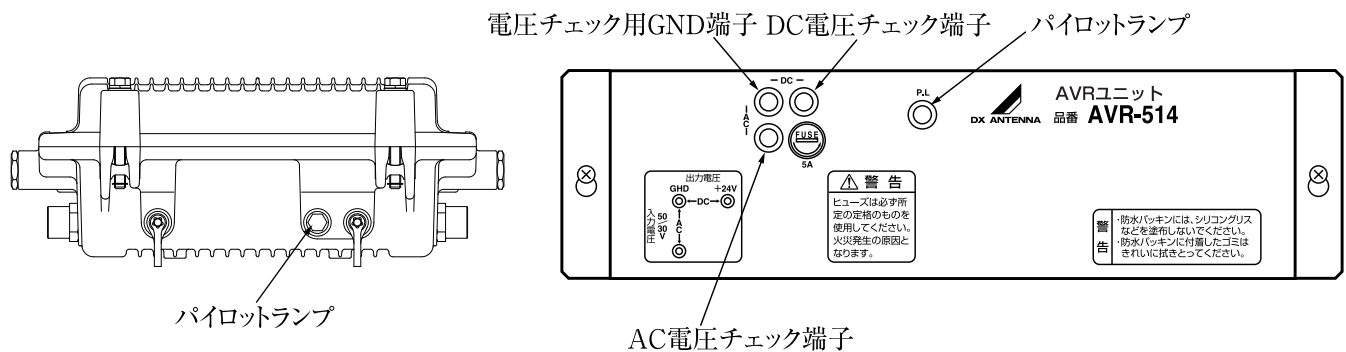
ダイカストケースの外側からも確認できます。

AC電圧チェック端子 …………… AC入力電圧の確認ができます。

AC40～60Vもしくは、AC20～30Vであることをご確認ください。

電圧チェック用GND端子…………AC電圧またはDC電圧測定時のGND端子です。

DC電圧チェック端子 …………… DC+24V出力電圧の確認ができます。DC+24Vであることをご確認ください。



### 5.3.3 ヒューズ (5A、耐ラッシュ・ミゼットタイプ)

ヒューズが切れた場合は、原因を確かめてから交換してください。ヒューズ交換時は、必ず通電されていない状態 (AVRコネクタを増幅部ユニットより抜いた状態) で行なってください。

- ・ヒューズは、容量および形状が違うものを使用しないでください。火災、感電、故障の原因となることがあります。

- 手順1 AVRケーブルを増幅部ユニットのAVRコネクタから抜き、必ずパイロットランプが消灯していることを確認してください。AVRケーブルを抜いてもパイロットランプが点灯している場合は、AVR内部に充電電圧が残っている状態ですので、各端子の通電ケーブルをはずした後、AVRケーブルを増幅部ユニットへ接続して充電電圧を放電してください。パイロットランプは消灯します。
- 手順2 その後AVRケーブルを抜きます。
- 手順3 AVRユニットのヒューズホルダにマイナスドライバをあて、押しながら反時計回りに回します。
- 手順4 少し浮き出たヒューズホルダを手で引っ張って取りはずします。
- 手順5 ヒューズホルダの後ろについているヒューズを交換します。
- 手順6 ヒューズホルダを元の穴に戻し、マイナスドライバを押しあてながら時計回りに回して元通りに取り付けます。
- 手順7 通電ケーブルをはずしている場合は、元の状態に接続します。
- 手順8 AVRケーブルを増幅部ユニットに接続します。

## 5.4 各帯域の調整

### 5.4.1 事前確認

出荷時には、各スイッチとボリュームはつぎのように設定されていますので、接続時やレベル調整時に切り換え、調整してください。

入力EQスイッチ	TILT (上) 側
入力ATTスイッチ	-10dB (上) 側
利得調整ボリューム	-10dB (左いっぱい) 側

※各スイッチ、ボリュームの操作には、調整ドライバーを使用し、無理な力や回転を加えないでください。

### 5.4.2 入力レベルの調整

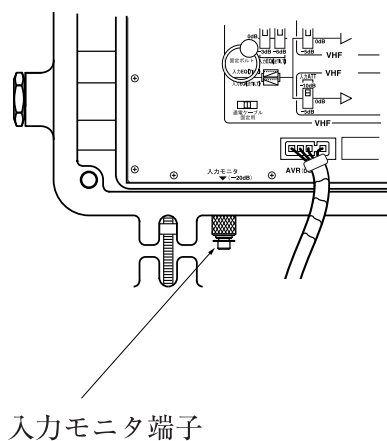
#### ①入力レベルの測定

入力レベルは、本体下面の入力モニタで測定できます。この端子では入力EQ (TILT/逆TILT)、入力ATT前の信号をモニタでき、入力レベルより20dB低い値でモニタできます。

#### ②入力レベルの調整

スペクトラムアナライザまたはレベルチェッカを入力モニタ端子に接続します。

調整する前に各帯域の入力レベルを測定し、下表のレベルに対応した入力ATTスイッチを設定します。



入力レベル (dB $\mu$ V)						入力ATT スイッチ 設定
VHF Lo		VHF Hi		UHF		
	入力モニタ値		入力モニタ値		入力モニタ値	
51~80	31~60	51~75	31~55	51~72	31~52	0dB
80~85	60~65	75~80	55~60	72~77	52~57	-5dB
85~90	65~70	80~85	60~65	77~82	57~62	-10dB

※入力レベルVHF Lo：90dB $\mu$ V以上（入力モニタ値70dB $\mu$ V以上）、VHF Hi：85dB $\mu$ V以上（入力モニタ値65dB $\mu$ V以上）、UHF：82dB $\mu$ V以上（入力モニタ値62dB $\mu$ V以上）の場合は、外付けアッテネータ等で調整してください。

※入力モニタ端子で調整した後は、モニタキャップをしっかり締め付けてください。

### 5.4.3 出力レベルの調整

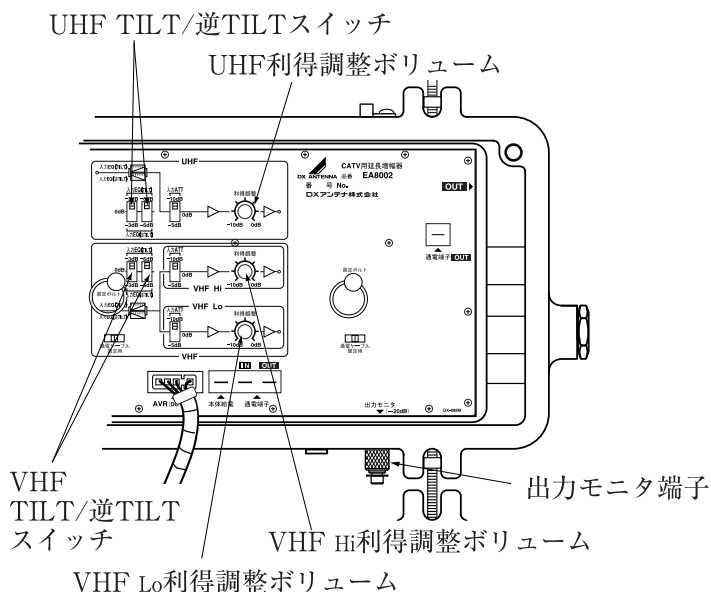
#### ①出力レベルの測定

出力レベルは、本体下面の出力モニタ端子で測定できます。この端子では利得調整ボリューム後の信号がモニタでき、出力レベルより20dB低い値でモニタできます。

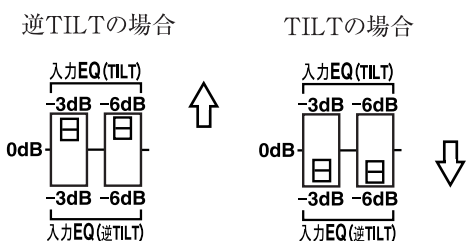
#### ②出力レベルの調整

スペクトラムアナライザまたはレベルチェッカを出力モニタ端子に接続します。

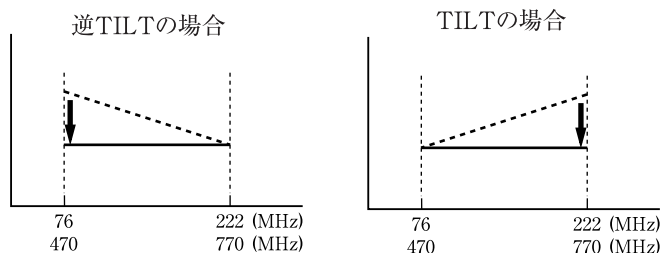
出力レベルが逆TILTの場合はTILTスイッチで調整し、TILTの場合は逆TILTスイッチで調整して、出力レベルの波形をフラットに近づけます。



<スイッチの位置>

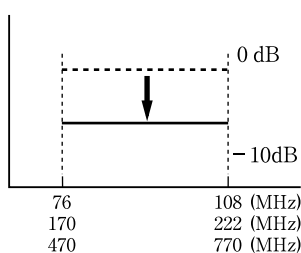


<出力レベルの波形>



定格出力レベルになるように、VHF Lo/VHF HiおよびUHF利得調整ボリュームで調整します。

<出力レベルの波形>



	出力レベル (dB $\mu$ V)	出力モニタ値 (dB $\mu$ V)
VHF Lo	115	95
VHF Hi	115	95
UHF	117	97

※出力モニタで測定した後は、モニタキャップをしっかりと締め付けてください。

※カスケード接続の場合、増幅器の出力レベルは、定格出力レベルより下げて使用してください。

(一例として、2段カスケードの場合は、出力レベルを定格出力レベルより3dB下げて使用してください。)



- デジタル信号レベルの確認は、デジタル対応のレベルチェッカまたは、チャンネルパワーの測定できるスペクトラムアナライザで測定確認してください。

チャンネルパワー等の機能のないスペクトラムアナライザでデジタル信号を測定する場合は、それぞれ次の測定方法により確認してください。

〈地上デジタル放送の場合〉

- ① スペクトラムアナライザのセンター周波数を、各チャンネルの中心周波数に合わせます。
- ② スペクトラムアナライザを次のように設定します。

周波数スパン (SPAN) 10MHz

分解能帯域幅 (RBW) 1MHz

ビデオ帯域幅 (VBW) 1kHz

中心周波数のレベルをスペクトラムアナライザで測定します。

測定したレベルに補正值 (RBW:1MHzの場合7.5dB) を加算した値が、その信号のレベルとなります。

注) 帯域内に大きなレベル差があったりノイズの影響が考えられるような受信状況の場合、測定誤差が大きくなります。このような場合は、複数ポイントを測定し、その平均値を信号レベルとしてください。

## 6. 付 属 品

予備ヒューズ (5A、耐ラッシュ、ミゼットタイプ・AVRに付属) .....	1本
アース端子用圧着端子 (機能アース端子に付属) .....	1個
M18ネジフタ (電源挿入口に付属) .....	2個
シリカゲル30g (フタに付属) .....	1袋
FRアダプタ .....	2個
通電ケーブル .....	2本

## 7. 規格とブロックダイアグラム

### 7.1 規 格

項 目 (単位)	規 格 値			備 考
使 用 帯 域	VHF Lo	VHF Hi	UHF	
使 用 チ ャ ン ネ ル (ch.)	FM・1~3	4~12	13~62	
使 用 周 波 数 (MHz)	76~108	170~222	470~770	
標 準 利 得 (dB)	35	40	45	利得最大時
利 得 調 整 範 囲 (dB)	0~-10	0~-10	0~-10	連続可変
入 力 A T T (dB)	0、-5、-10	0、-5、-10	0、-5、-10	
入 力 E Q (dB)	0、-3、-6 (76MHz) /※ 0、-3、-6 (222MHz) 注)1		0、-3、-6(470MHz) /※ 0、-3、-6(770MHz)注)2	利得最大時
適正入力レベル範囲 (dB $\mu$ V)	51~80	51~75	51~72	
定 格 出 力 (dB $\mu$ V)	115 (2波)	115 (5波)	117 (7波+デジタル9波) 注)3	利得最大時
V S W R	2.5以下	2.5以下	3.0以下	利得最大時
雑 音 指 数 (dB)	8以下	8以下	8以下	
入力インピーダンス ( $\Omega$ )	75			
出力インピーダンス ( $\Omega$ )	75			
入 出 力 モ ニ タ (dB)	-20			
耐 雷 性 (kV)	$\pm 24$ (1.2/50 $\mu$ s)			入出力端子、電源端子
使 用 温 度 範 囲 ( $^{\circ}$ C)	-20~+40			
電 源 (V)	AC20~30/AC40~60			
消 費 電 力 (VA)	約25			
外 形 寸 法 (mm)	203 (H)×358 (W)×131 (D)			
質 量 (kg)	約5.2			

※加算式

注)1 76MHzと222MHzは切り換えです。(同時に設定することはできません。)

注)2 470MHzと770MHzは切り換えです。(同時に設定することはできません。)

注)3 デジタル(550~770MHz)は-10dB運用

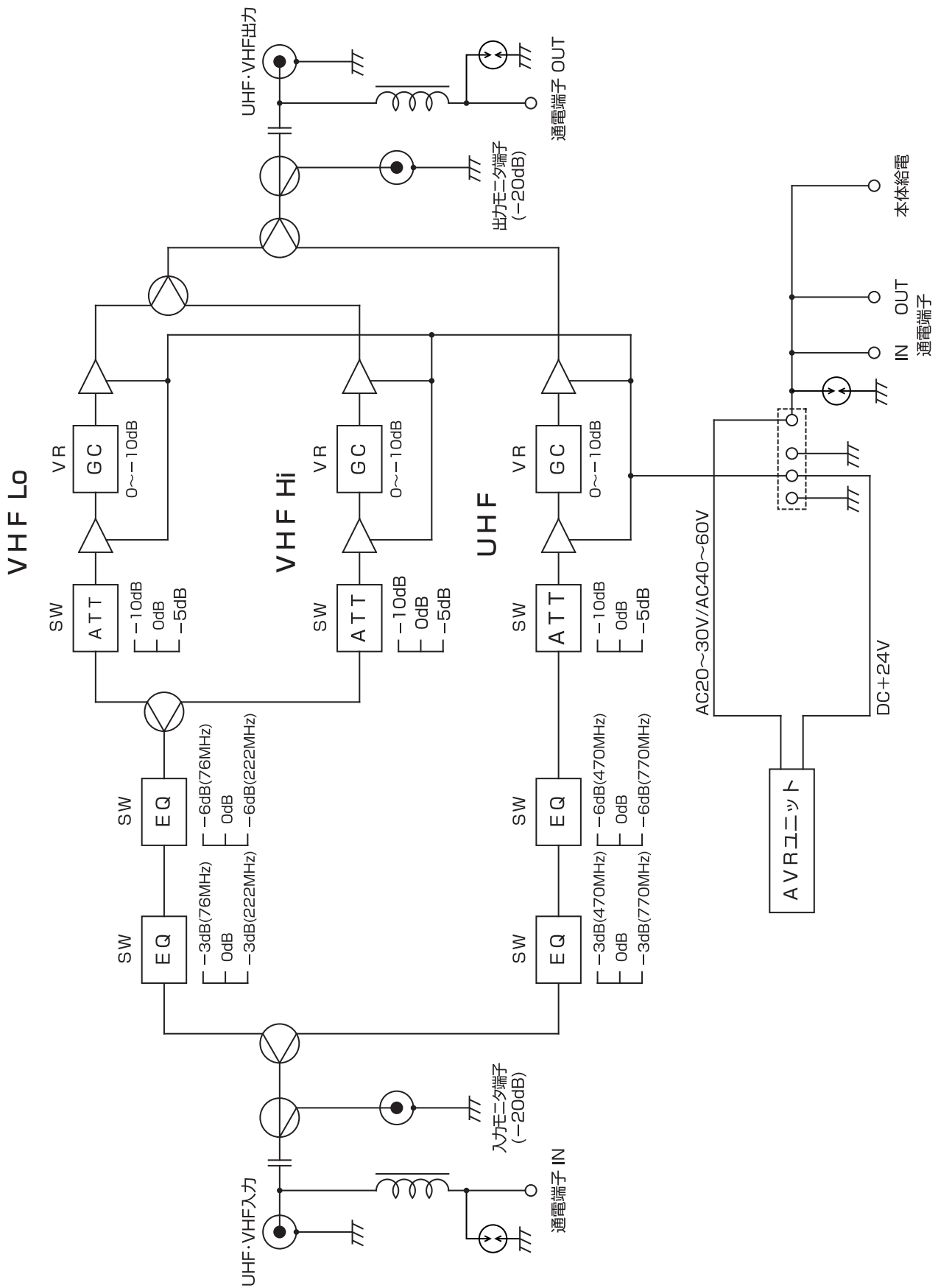
規格は改良により、変更させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

#### アナログ伝送波数に対する出力レベル (UHF)

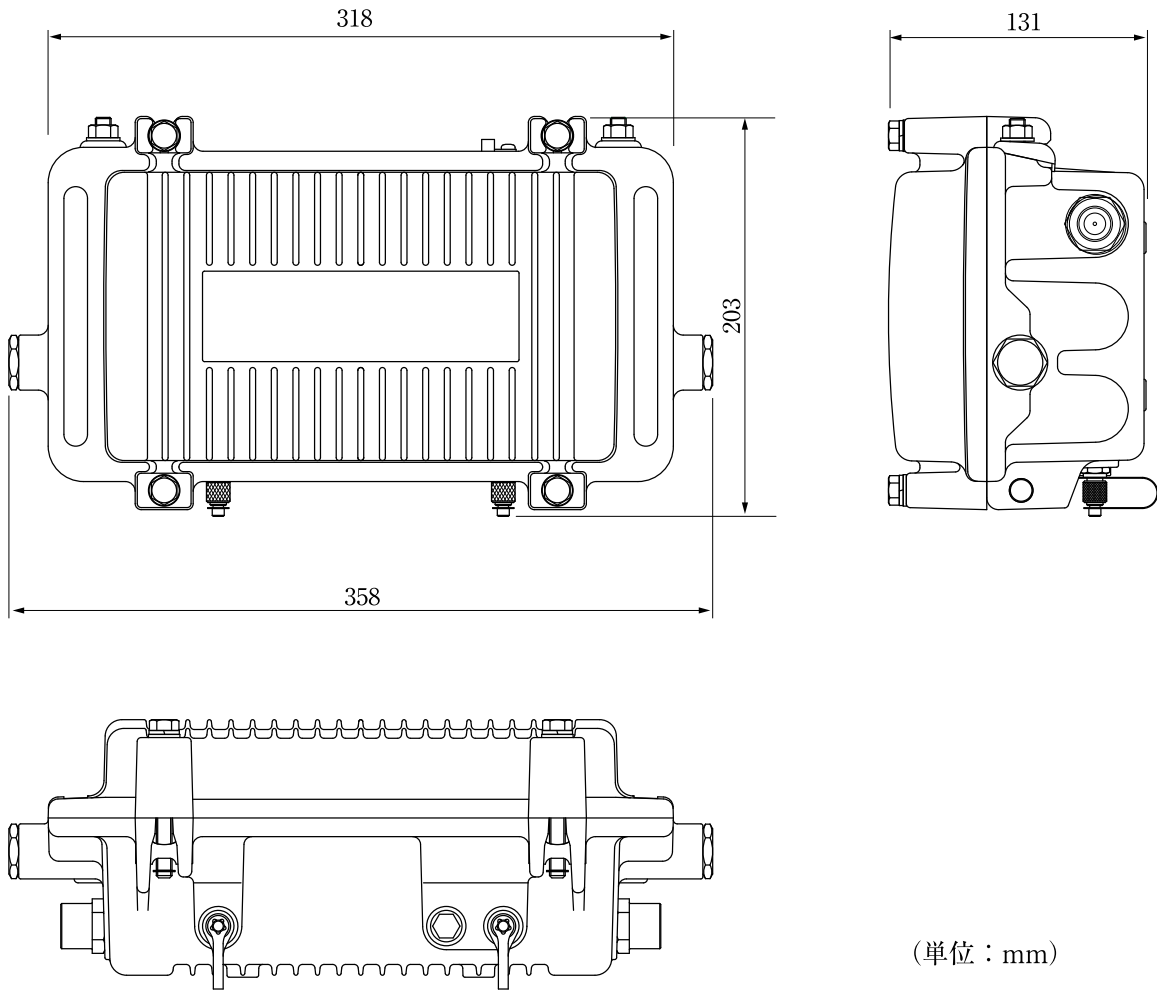
伝送波数 (波)	2	3	4	5	6	7
定格出力 (dB $\mu$ V)	125	122	120	119	118	117

ただし、伝送チャンネル配列は当社標準チャンネル配置による値ですので、配列により若干値が変化します。

## 7.2 ブロックダイアグラム



## 8. 外 観 図



EA8002